

令和四年度 入学試験 第一回午前 国語

京華女子中学校

令和四年二月一日

□ 次の漢字に関する問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナをそれぞれ正確な漢字に直しなさい。

- ① 父のアリし日の写真。 ② チョウカンを読む。 ③ パナマウンガを船が通る。
 ④ 本州上にテイキアツが通る。 ⑤ ぶつぶつとヒトリ言をいう。 ⑥ 夏は特にエイセイ環境を整える。

問二 ①～⑥の——線部の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

- ① 橋の下に魚が群がる。 ② 耳目を集めたニュース。 ③ おいしいお菓子を頂く。
 ④ 宝物庫を開ける。 ⑤ 分割で料金を支払う。 ⑥ 今年は穀物が不作だ。

□ 次の文章を読んで後の問題に答えなさい。

① SDGsのこれからにとって必要なこと、それは各自が2030年の世界のかたちを考えながら、行動をとっていくことである。行動の単位は、一市民としての個人であったり、会社人としての個人であったり、あるいは仕事や組織の一員やリーダーとしての行動、そしてその結果としての会社や組織における行動であったりと、さまざまである。違いはあれ、さまざまなレベルで行動を起こすことで、すべてが始まっていく。その際大事なことは、型にはめるのではなく、「自分なり」の個性を生かした行動をとることである。

筆者自身、それまで仕事がメインでSDGsを考えていたが、あるとき行動に移す機会に恵まれた。家づくりである。家族が増えることをきっかけに、手狭になってきたマンションから引越すことを考えはじめた。ちょうどそんな折、建築家の同僚に、ふとした立ち話の最中に、どこのデイベロッパーやハウスメーカーが良いのか、尋ねてみた。そうしたら、彼の口からは想像もしていない答えが返ってきた。

「建築家と家をつくるのが良いんじゃない？ そして、蟹江さんがつくるのであれば、SDGs達成を目指した家にするべきでしょう」

この言葉をきっかけに、同僚の小林博人、それに彼の紹介で加わった川島範久と一緒に、「SDGハウス」づくりに取り組むことにした。このプロジェクトによって、SDGsが一気に自分の身近なことの一部として感じられ、研究対象であるばかりでなく、「他人ごと」ならぬ「自分ごと」になっていったように思う。こうした、何か自分のできる、そして関心を寄せることについて、行動を起こすことで、いろいろな発見がある。それは、「自分ごと」化するうえで非常に重要なことのように思う。

SDGハウスではいろいろな発見が現実のものとして出てきた。たとえばコストの問題である。SDGsは経済、社会、環境の3つの側面をもっているが、それまで筆者は、経済や社会の持続性を考えるための前提条件として環境や地球の課題があることから、環境の持続性を取り込むことがこの問題の核心であり、最も難しいと考えてきた。しかしSDGハウスプロジェクトを行うことで改めて感じたのは、コストをかければ環境を守ることはいろいろとできる、ということである。技術はかなり発展している。A、環境に良い商品というものは、今の経済システムのなかでは高価格の商品が多い。普及している金属や石油化学製品のほうが、木材を使ったものよりも安い。木材にしても、認証材を使おうと思うと、どこから来ているのかのトレースができない集材よりも高くつく、といった具合である。あるいは、家のかたちをはじめ、環境に優しいといわれる素材もいろいろなレベルがあるなかで、たとえば高級感も出しながら環境に優しい素材となると、コストがより多くかかる。プライバシーを確保しながら開放的な空間を確保しようとする、複雑な構造となり、そこにもまたコストがのってくる、という具合である。【A】

コストの問題は、自分の財布ということになると、現実的に深刻な問題として降りかかる。実は経済の持続可能性こそが、環境の持続可能性を確保するために重要な要素となっているわけである。これを広げて考えれば、現在の経済システムのなかでは、大量生産、大量消費が可能な石油化学素材を使った商品のほうが、持続可能な素材を使用した商品に比べて安く手に入り、そのことがまた経済合理性を再生産していることに気付く。そうになると、生産システムを変え、たとえばSDGsのなかの12・cでもいう

ように化石燃料補助金を減らし、持続可能な素材を使用した商品の競争力を増していくことが、結果的に持続可能な商品の活用につながることも、実感としてわかってくる。

B、社会の側面は、人と人のかかわりのことだということも改めてわかってきた。家のあり方を考えたときに、ジェンダーにしろ、子どもの教育や学習にしろ、家の「内」と「外」とのかかわりにしろ、いずれも人のかかわりや、人の成長や対人関係をどうとらえるのか、そしてどう考えるのか、ということに関係していることに改めて気付かされる。塀を高くすれば、家の中は守られているように感じられるかもしれないが、外から見れば中の様子がわからないのは不気味にも感じるし、むしろ安全性は開放的な場所ほど高いというような話も聞く。勉強のためのスペースをどう設置するかは、親子の関係にもかかわってくる。場の設置の仕方を通じて、社会の持続性という側面は、人のとらえ方に大きく関係するということに気付かされる。

C、経済、社会、環境は、金、人、自然の問題でもある。それらの間のバランスを自分なりにどうとりながら、SDGsと

いう世界の目標を達成する道の手をつくっていくかが、SDGsを身近に考えるということになっていく。

D、一つのコトやモノを考えるにしても、重要視する点や価値観のもち方によって、いろいろなやり方でSDGs達成を目指すことができることも気付かされた。【B】

E 木である。SDGs達成のためにわかりやすいのは、FSC認証材を使用することである。前にも触れたように、FSC認証材を使用することで、持続可能な森林資源の利用(15・2)をはじめ、多くの目標達成に貢献することができる。こうしたことから、SDGハウスでは三重県尾鷲の認証材を構造材に利用した。しかしそれだけではない。発展途上国からの輸入材であっても、生産地の労働環境や森林経営についてのトレーサビリティ(生産・流通履歴の情報)が把握できれば、先進国と途上国の間の格差解消にもつながるし、現地の雇用創出にもつながる。輸送にかかる二酸化炭素排出量を削減するという課題はあるものの、その部分を重視して国産材とするか、それとも途上国の課題をより重視するか、いずれの解決を優先するかによって、SDGsの達成を目指しながらも、使う木材が変わってくる。SDGハウスでは、木材のトレースについてデューデリジェンス(適正評価)を実施しているマルホン社から、途上国産の木材によるフローリングの購入も行った。

さらには、古民家で使っていた古木や、別の場所ですった木の再利用という道もある。一度使った木である。使わなくなったところから、再利用することもまた、資源利用効率という意味で、SDGs達成に貢献しうる。SDGハウスでは、古木を利用して机の上板をつくったり、無印良品の展示会で利用した杉の木材を棚板として使う、ということもやってみた。今まで節の多い杉は使用用途が限られてきたが、これをあえて目に見えるところに使うことで日本の林業に貢献しようという同社の取り組みに賛同したからでもある。

木の活用は構造材や棚だけに終わらない。窓枠を木でつくることで、断熱性能も上がることから、木の窓枠をつくる山形のアルス株式会社「夢まど」も採用し、木の素材感を味わいながら、エネルギー利用の効率化を図る試みも導入した。

これらは一例であるが、このように、木一つをとってみても、さまざまなかたちでSDGsの達成に貢献しうることがわかったのは、実際に調べ、「自分ごと」に引き付けて考えたからであった。専門家であればともかく、一市民として、SDGsを実感するためには、行動を起こしてみることが重要だと考えるゆえんである。このほかにも、子どもの寝室に、木の組み合わせだけで組み立て、その周りを本棚とするBBB(ベッド&ブック・ブース)を小林と考案し、DIYで製作した。また、そこで使用するマットレスには、コイルを使わず汚染物質も出さない作り方をするマニフレックス社のマットレスを使用したり、と、SDGs達成のための工夫を可能な限り取り入れていった。

筆者の場合は、たまたま新築の、そして狭小な土地に建てる家となったが、こうした行動は新築に限らない。うまく物件を探すことができれば、中古の家やマンションのリフォームという選択肢もあるだろうし、古民家再生も一案だろう。大事なことは、型にはめるのではなく、自分に合った、自分がやりたい方法で、しかし、SDGsという世界のあるべき姿を基準にしてそのあり方を考えるという点である。これは、SDGs達成へ向けた行動のエッセンスでもあるように思う。【C】

本書を通じて繰り返し述べてきたのは、SDGsは達成へ向けたルールがなく、到達点だけが示されているという点である。つまり、やり方はいろいろある。しかし、SDGsという骨格だけは外してはいけないということである。

人生にはそれぞれ目指すところがあるだろうし、企業や自治体にもそれぞれ目指すところがあるだろう。SDGsは目標といつてはいるものの、企業や自治体は、SDGsのためだけに事業や政策を行っているわけではない。それらの主体はそれぞれの事業があり、たとえばモノづくりで人を幸せにしたり、あるいは何かのサービスを提供して人を幸せにすることが目標であったりする。それは、事業をするうえで喜びにもつながっているであろう。SDGsはそういった個別目標にとって代わろうというものではない。

そうではなく、個別目標を達成するために押さえておかなければいけないチェックポイントとでもいうべきものが、SDGsにより適したイメージではなからうか。それぞれの個別目標を目指しながら、二酸化炭素をどんどん出してしまつては、自らの利益

と地球の利益とが相反してしまふ。あるいは、個別目標達成に目をとられた挙げ句、社員に過重な労働を背負わせても、会社の利益と個人の幸せとが相反してしまふ。

【ア】そういった矛盾を生じさせずに、個別利益と全体利益との整合性をもたせるためのチェックリストがSDGsなのだろう。

【イ】従来から、個別合理性を追求すると、社会全体の合理性が損なわれることになるということは、経済学的にも説明されてきた。

【ウ】転じて、たとえば各国が自国の経済的利益のみを追求すると、結局地球全体の利益としての気候変動対策ができなくなるといふのもこうした例の一つである。

【エ】これは、「囚人のジレンマ」に代表されるような、個別合理性と社会的合理性の調和が困難な「公共財」の確保にまつわる問題に対して、解答を与える可能性がある手段としても、興味深い。

【オ】囚人が自らの刑を軽くしようと、共犯者を裏切って自白すると、共犯者も同じ行動をとったときに、結局お互いの犯罪が明らかになってしまい、双方ともに刑が重くなるというのは古典的な例である。

〈 ※ 〉

しかし、個別合理性の追求の際に、全体の利益と整合的であるかのチェックを行い、修正可能であれば修正の方策を見つけ、すぐに修正できなければ時間をかけて仕組みや技術のイノベーションで解決を目指していくことができれば、個別合理性と社会的合理性の調和の道も開けてくるのではなからうか。実は、筆者がSDGsに最も期待したい点は、^⑥こうしたことである。SDGsという歴史上はじめての大きな社会実験がこれを証明できたときには、地球と人類には明るい未来が開けてくるような気がしている。

【D】そうした意味では、SDGsは、21世紀を生き抜くための最低限の目標であるといつてよい。その先の個々の目標実現のために、通っておかなければいけない通過点としての目標である。個々の目標は多様であるべきなので、やり方はいろいろある。その多様性がまた、新たなやり方を生み出す力になり、そうした力が合わさって、さらに大きなイノベーションが起こる可能性も出てくる。これからの世界は、AIも進化するだろうし、IoTもさらに進み、個々のモノのコネクティビティ（つながり）も高まっていくだろう。さまざまな可能性のなかには、人類や地球にとって悪用されかねない可能性も含まれる。技術が悪用されないよう、これまでもさまざまなところで規制がかけられたり、倫理規定が設けられてきた。そうした技術の展開も含め、通らなければいけない最低線がSDGsだといえるのではなからうか。

（蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』による）

注

- 1 デイベロッパ―…不動産や建物の開発などを行う会社。
- 2 コスト…物を生産するためにかかる費用。時間や労力をふくめることもある。
- 3 トレース…たどっていくこと。
- 4 12・c…SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」の中のターゲット。化石燃料（石油や石炭など）に対する補助金について述べられている。
- 5 ジェンダー…生物的な性差ではなく、社会的・文化的につくられた性差。
- 6 15・2…SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」の中のターゲット。植林について述べられている。
- 7 フローリング…木質系の材料を使用した床材。
- 8 イノベーション…今までのものとは全く変わった新しい工夫や計画、技術などのこと。
- 9 IoT…モノがインターネット経由で通信し、つながること。
- 10 倫理…社会生活で人が守り行うべき道。

問一 〰〰線部 a 「型にはめる」・ b 「自分ごと」・ c 「ゆえん」の本文中の意味として最適なものを、それぞれ次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-----------|---|-----------------|---|----------------|
| a 「型にはめる」 | ウ | 型崩れしたものを元にもどす | エ | 一定の枠に入れて特徴をなくす |
| b 「自分ごと」 | ウ | 自分のやりたいことと異なること | エ | 自己中心的に考えること |
| c 「ゆえん」 | ウ | 理由 | イ | 関係性 |
| | | ウ | ウ | ふんいき |

問二 【ア】～【オ】は順序が乱れています。論理的に正しい順序にならばかえて、記号で答えなさい。ただし、【ウ】は四番目に置くものとします。

問三 【A】～【D】のいずれかに、次の一文が入ります。入る箇所を記号で答えなさい。

逆にいえばそれができない限り、地球と人類は限界に突き当たることになる。

問四

A

 ～

E

 にあてはまる語を、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。ただし、同一の語を二度以上用いないこととします。

- ア あるいは イ さらに ウ しかし
エ たとえば オ つまり

問五 〰線部①「SDGs」とありますが、「SDGs」とはどういうものだと筆者は考えていますか。本文のへ※～より後の文章から二十字以内で抜き出さない。ただし、句読点・カギカッコなどの記号を含む場合は一字と数え、二けたの算用数字も一字と数えます。

問六 〰線部②「それ」は何を指しますか。二十一字で抜き出さない。ただし、句読点・カギカッコなどの記号を含む場合は一字と数え、二けたの算用数字も一字と数えます。

問七 〰線部③「経済の持続可能性こそが、環境の持続可能性を確保するために重要な要素となっている」とありますが、これはどういうことですか。次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 経済を持続させるためには環境を保つことが必要のため、環境の安定が持続されることが重要であるということ。
イ 経済を持続させるための環境保全は必要ないため、環境の安定・不安定はそれほど問題ではないということ。
ウ 環境を持続させるためにはコストがかかるため、経済の安定が持続されることが重要であるということ。
エ 環境を持続させるためのコストはかからないため、経済の安定・不安定はそれほど問題ではないということ。
オ 経済と環境の関係性にはまだわからないことが多く、それぞれの持続可能性を見ることが重要であるということ。

問八 〰線部④「それ」は何を指しますか。次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア SDGsの達成 イ FSC認証材の使用 ウ SDGハウスの建設
エ 森林資源の購入 オ 持続可能性の検討

問九 ――線部⑤「あえて目に見えるところに使うことで日本の林業に貢献しよう」とありますが、なぜ「目に見えるところに」杉を使うことで「日本の林業に貢献」できるのですか。四十字以内で説明しなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの記号を含む場合は一字と数え、二けたの算用数字も一字と数えます。

問十 ――線部⑥「こうしたこと」とはどういうことですか。次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 個々の合理性と社会の合理性は相反することが多いが、それらの内容を手直ししながら互いに損にならないようまとめていくこと。
- イ 個々の合理性と社会の合理性は相反することが多いが、もともと互いに損にならないように組み込まれているため、少しの手直しだけで調和がとれること。
- ウ 個々の合理性と社会の合理性は相反することはほとんど無いが、少しの違いも生まないように手直しをし、まとめていくこと。
- エ 個々の合理性と社会の合理性は相反することはほとんど無いため、少しの手直しだけで調和がとれてしまうこと。
- オ 個々の合理性と社会の合理性は全く相容れることがないので、互いに少しでも歩み寄れるように手直しを繰り返していくこと。

問十一 次のア～カの中から本文の内容に合うものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア SDGハウスを作る過程で、環境を守るためにはコストをかける必要があるとわかった。
- イ 安全性というものは、開放的な場所ほど高くなるという考えが常識である。
- ウ 中古の家やマンションのリフォームよりも新築の家の方がSDGハウスにしやすい。
- エ 囚人はみな、自分の刑を軽くするためには共犯者を裏切って自白するものである。
- オ SDGという大きな社会実験は、地球と人類の明るい未来のために行っている。
- カ SDGは多くの技術が悪用されないために設けられた規制・規定である。

問十二 次に示すのは、本文を読んだりわさんの発言です。りわさんの発言には、本文を誤って理解している部分があります。その誤りを説明している選択肢を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

りわさんの発言

「SDGsを考えることはおもしろいわ。SDGsを達成するために、個人でも学校でも会社でも、それぞれのレベルにあわせて、個性を生かした行動をとっていいのね。だから、SDGsの目標を自由に変えてもよくて、個人や会社を持っている様々な目標を実現すると、その結果として、SDGsを達成できるのね。家に帰ったら、私に何ができるか考えて、行動に移してみようかしら。それが、SDGsのこれからにとって必要なことよね」

- ア SDGsを達成するために、個性を生かした行動が認められているという前提が誤っている。
- イ 行動する側がSDGsの目標を自由に変えてもよいという理解が誤っている。
- ウ 個人や会社などが、様々な目標を持っているという前提が誤っている。
- エ 個人や会社などが目標を実現することによって、SDGsを達成できるという因果関係が誤っている。
- オ SDGsのこれからにとって、個人が行動することが必要だという理解が誤っている。